

2011 年度 中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	理工学部	身分	教授
氏名	庄司 裕子		
NAME	Hiroko Shoji		

1. 研究課題

(和文) 飽きを感じる感性のモデル化とその工学的応用に関する研究

(英文) A Study on Information Recommendation Systems for Continuous Use

2. 研究期間

2年間

3. 研究の概要 (背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600 字程度、英文 50word 程度)

(和文)

本研究では、繰り返しのパターンが人の感性に与えるマンネリ感 (= 飽きを感じる感性) をモデル化した。そして、構築したマンネリ感モデルを利用して、同種の意味決定を繰り返しおこなう場合に、利用者がマンネリを感じない情報推薦手法を提案し、その有効性について検討した。

近年、人が接する情報量が飛躍的に増大し、人々が膨大な情報の中から自分の真に求める情報にたどり着くことは困難である場合も少なくない。この問題に対処するため情報推薦に関する多数の研究や開発がなされてきたが、従来研究では、同一のシステムやサービスを継続的に利用した場合にユーザが感じる飽きやマンネリといった側面までは考慮してこなかった。本研究ではこの問題に取り組んだ。

本研究では、日々の食事の献立作成を例題として、利用者の過去の意思決定履歴 (献立履歴) からマンネリ度を算出し、なるべくマンネリに陥らない選択肢を推薦するシステムを実装した。そしてシステムの評価実験をおこない、システムの有効性を確認することができた。

本研究による知見は、献立作成に限らず他の領域にも応用可能であると期待される。そこで本研究の後半では、日々のファッションコーディネートや楽曲選択など異種の例題について取り上げ、継続的な利用をおこなう場合に飽きのこないコンテンツを提供できるシステムの提案へと発展させた。

(英文)

This study has modeled the human nature of being tired of the same thing and enabled the measurement of the degree of such boredom. Then, this study has implemented an information recommendation system that has features to (1) visualize the degree of the user's boredom and (2) recommend information that can reduce it. The result of the evaluation experiment shows that the system can get the user less bored and more satisfied when used continuously.

4. おもな発表論文等 (予定を含む)

【学術論文】 (著者名、論文題目、誌名、査読の有無、巻号、頁、発行年月)
(1) Shoji, H., Inamura, H., Ogino, A., A Study on Information Recommendation Systems for Continuous Use, Proceedings of the Third International Conference on Intelligent Networking and Collaborative Systems(IEEE INCoS 2011), pp.867-871, Nov. 2011. 査読有
(2) Tanabe, Y., Shoji, H., A Study on Fashion Coordination Support System, Proceedings of the 1st International Symposium on Affective Engineering, 3B-1, Mar. 2013. 査読有
【学会発表】 (発表者名、発表題目、学会名、開催地、開催年月)
(1) 庄司裕子, 飽きずに利用できる情報システムとコンテンツの実現に向けて, 第 13 回日本感性工学会大会, 東京, 2011 年 9 月. (企画セッション招待講演)
(2) 大川隼, 梶賢, 西村隆宏, 庄司裕子, 荻野晃大, 楽曲の組合せ価値創成に関する実験と分析, 第 14 回日本感性工学会大会 (14th JSKE), 東京, 2012 年 8 月.
(3) 川崎雄太, 庄司裕子, 組合せ価値を考慮した商品選択システムの構築, 第 14 回日本感性工学会大会 (14th JSKE), 東京, 2012 年 8 月.
【図 書】 (著者名、出版社名、書名、刊行年)
【その他】 (知的財産権、ニュースリリース等)